

チューター手順（マッチング前後）

時期	行うこと	狙い
マッチング直後	留学生側と次のことを確認する。 ・論文チューターがやれることの確認 ・執筆・引用スタイルの確認（付録①） ・読みにくい文章例の確認（付録②） ・論文の書き方本の紹介 ・日本語ツールの紹介（付録③）	執筆前に助言を行っておくことで、作業量の圧縮を実現する。
A4数枚分を書いた段階	留学生側に早い段階で、対面で原稿を見せてもらい、次のことを行う（1時間程度）。 ・留学生側の日本語レベルの把握。 ・A4一枚を添削してみて、所要時間を把握。 ・所要時間を留学生に伝達。 ・執筆・引用スタイルの再確認	・早い段階で、日本語レベルを把握することで、日本語助言にかかる時間の目安をつける。 例：A4用紙1枚(1500文字程度)に30分 修士論文15万字：3000分(50時間) 博士論文30万字：6000分(100時間) →キャパオーバーが予想される。 ∴作業方針を見直す or 留学生に時間配分の見直しを提示

以下は、実際のチューター活動例（ブレインストーミング、日本語助言 etc.）

○お節介はオーサーシップの侵害、オーバーワークの原因となります。

お節介防止のためのアーキテクチャとして、以下が存在します。

- ・対面作業 ：サービス残業の防止、早いレスによる作業量の圧縮、
- ・業務時間の設定：時間制約を設置し、留学生による最適な時間配分の実現。
- ・依頼書の提出 ：留学生による最適な時間配分の実現＋依頼以外を行わないことでお節介の予防。